

第2節 学校での学習

次に、授業中の過ごし方を中心に、児童・生徒の学校での学習行動について見てみよう。

1. 学年、成績と学校での学習

(1) 学年別に見た学校での学習

図1-7は、まず、学年別に学校での学習を見たものである。この表で特徴的なことをピックアップすると、まず第一に、④マンガをかいたり、文房具で遊ぶが、各学年で3割から4割いたり、⑨ぼうっと他のことを考えているも、小学5年生で4割弱、中学2年生で6割強、高校2年生では7割に達している。また、⑧近くの人とおしゃべりをするも、小学5年生で66.3%、中学2年生で69.3%、高校2年生ではやや下がるもののそれでも56.2%もある。さらに、⑤授業中に他の科目や塾の勉強をするも、小学5年生ではほとんどないが、中学2年生で2割弱、高校2年生では5割弱いる。学校では、授業中の小さな逸脱行為(授業への不参加)が頻繁に起きていることがわかる。

第二に、しかし、児童・生徒はやるべきことはきちんとやっている。すなわち、⑩黒板に書かれたことをきちんとノートに書くが、小学5年生で82.8%、中学2年生では95.0%、高校2年生でも91.1%もある。さらにまた、⑪黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書くと答えた者も、小学5年生で4割弱、中学2年生で5割弱、高校2年生では6割弱にまで達している。彼(女)らは彼(女)らなりに授業の要点は押さえようとしているのである。

第三に、①授業でわからないことはあとで先生に質問すると答えた割合は、各学年ともおよそ4分の1ほどであった。授業後に質問することはあまり一般的ではないようだ。ただし、小学生のみを対象にした質問で、②自分から手をあげて質問したり意見を言うこと答えた児童が39.0%おり、授業中に関しては積極的に先生に向かっていっている。

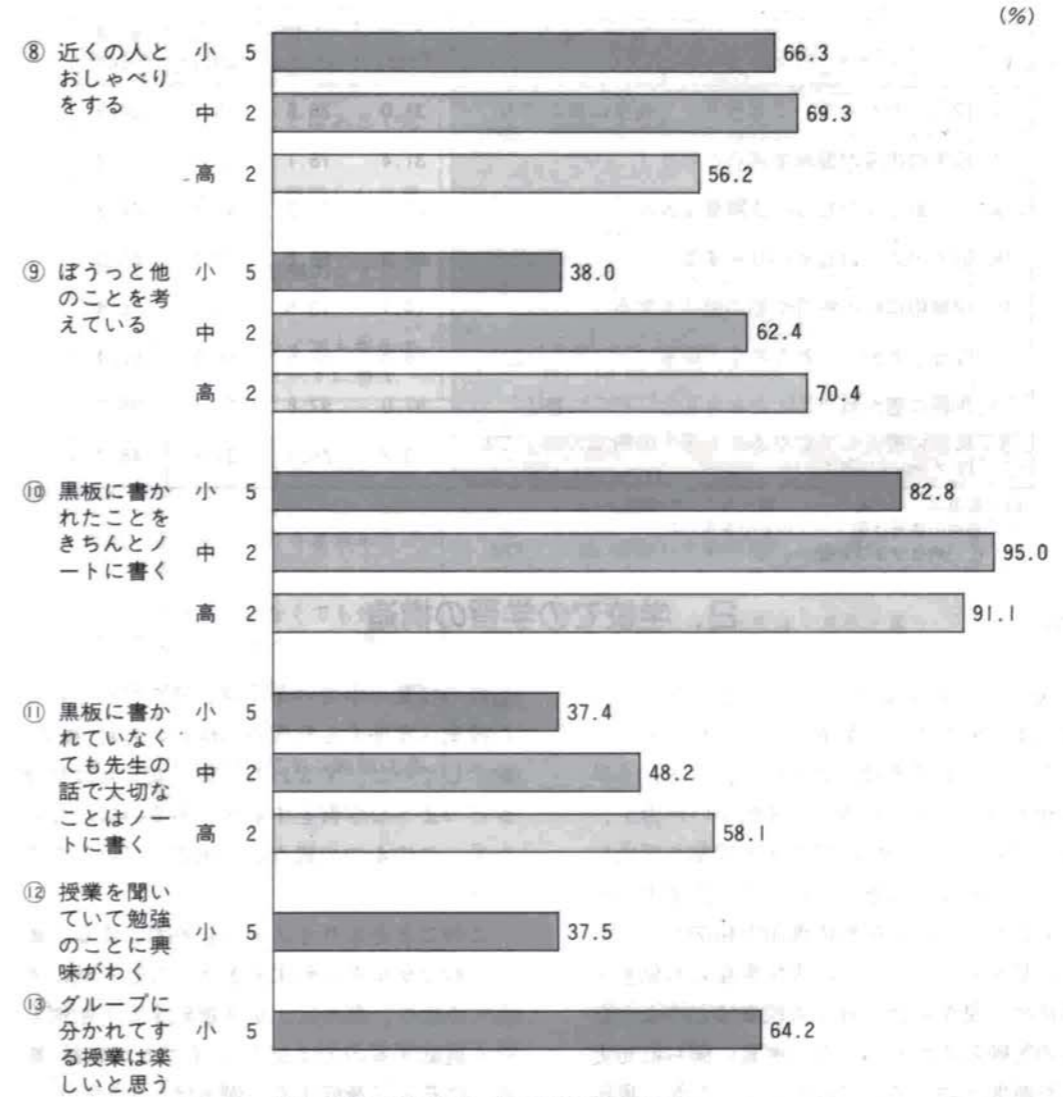
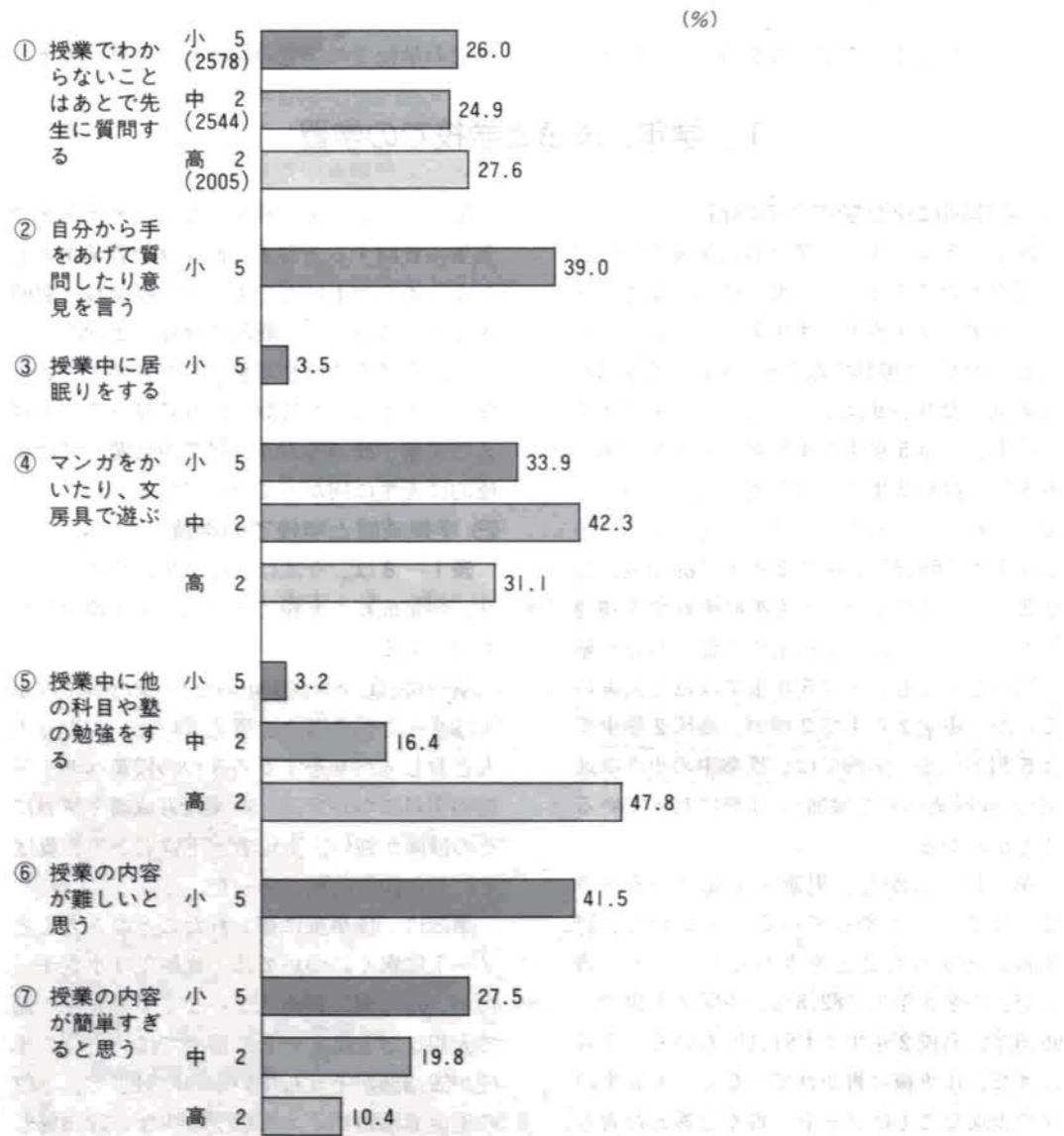
(2) 学業成績と学校での学習

表1-8は、今度は、中学生に焦点を絞り、学業成績と学校での学習との関連を見たものである。

第一に、④マンガをかいたり、文房具で遊ぶ、⑨ぼうっと他のことを考えている、⑧近くの人とおしゃべりをするの3つの授業への不参加の項目については、いずれも成績下位者にその傾向が強い。上位者と下位者との差異はそれぞれ10%前後であった。

第二に、⑩黒板に書かれたことをきちんとノートに書くについては、成績差は小さかったが、⑪黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書くでは、上位の生徒が59.3%がそうしているのに対して、下位の生徒では20ポイント以上も少ない37.6%しかそうしていない。成績下位の生徒は前述のように最低限の要点(黒板を写す)は押さえようとしているが、それ以上についてはやや手を抜きがちである。

図1-7 学校での学習



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) 中・高校生の空欄は、その項目を質問していない。
 注3) ()内はサンプル数。

表1-8 成績別に見た学校での学習(中学生)

	上位 (940)	中位 (557)	下位 (1017)	全体 (2544)
① 授業でわからないことはあとで先生に質問する	31.0	26.6	18.5	24.9
⑦ 授業の内容が簡単すぎると思う	31.4	18.1	10.2	19.8
④ マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	36.7	40.6	48.0	42.3
⑧ 近くの人とおしゃべりをする	66.0	68.2	72.8	69.3
⑤ 授業中に他の科目や塾の勉強をする	14.1	13.5	19.5	16.4
⑨ ぼうっと他のことを考えている	59.3	59.6	66.9	62.4
⑩ 黒板に書かれたことをきちんとノートに書く	97.0	97.8	91.7	95.0
⑪ 黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く	59.3	49.7	37.6	48.2

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) 表中の番号は図1-7のものを用いた。
 注3) ()内はサンプル数。

2. 学校での学習の構造

大学生たちを見ていると、彼(女)たちは、①必修か否か、②面白いそれともつまらないか、③将来役に立ちそうか否か、④単位がもらえやすいか否か、⑤朝早いかなど、などの基準(モノサシ)で大学の授業を評価し選んでいるように思う。そして、授業中の態度もおおよそその選択の理由と相関があるように思える。ところで、大学生ならぬ児童・生徒の立場からは、日々の授業はどのようなものと映るのであろうか。興奮に満ちた充実した時間と映っていて欲しいものだが、現実には必ずしもそうではないようである。

ここでは、質問項目の制約の関係から小学5年生に焦点を当て、多変量解析の手法の1つである因子分析の手法を用いて、彼(女)らにとって、学校での学習とはいったいどのような意味を持っているのか、明らかにしたい。

(1) 因子分析とは

因子分析(バリマックス回転法)の結果、表1-9にある4つの因子が得られた。これら4つの因子は、全ての授業が必修である小学生にとっては、授業選択の基準というよりは、

必修の授業の中でいかに時を過ごすかといった授業へ参加する態度や心構えの方針(観点)を示していた。すなわち、彼(女)らは自分がどのような学習をするか、あるいはしないかを、この4つの観点から決定しているのである。

このことをよりイメージしやすくするために、我々が車を運転するときのことを例に考えてみよう。我々は、車を運転するとき何となく運転するのではなく、いくつかの方針(観点)にそって運転する。例えば、スピード、快適さ、スリル、安全性などである。そして、これらの組み合わせから最終的にどのような運転をするかを決定している。小学生も同じように、この後説明する4つの方針(観点=因子)の組み合わせから最終的にどのように授業に参加するかを決定しているのである。

なお、表の中で、質問項目と数値は、その因子がどのような因子(方針・観点)であるかを特徴づけている。数値が大きいほど、その因子を強く特徴づけている。それでは、第1因子から順に4つの因子の意味を拾ってみよう。

表1-9 学校での学習因子分析(小学生)

第1因子 自発的学習		第2因子 注意散漫	
① 授業でわからないことはあとで先生に質問する	.605	⑧ 近くの人とおしゃべりをする	.624
② 自分から手をあげて質問したり意見を言う	.597	④ マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	.552
⑫ 授業を聞いていて勉強のことに興味がわく	.497	⑨ ぼうっと他のことを考えている	.547
⑪ 黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く	.394		
第3因子 参加		第4因子 難易度	
⑩ 黒板に書かれたことをきちんとノートに書く	.583	⑥ 授業の内容が難しいと思う	-.491
⑪ 黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く	.461	⑦ 授業の内容が簡単すぎると思う	.444
⑬ 授業を聞いていて勉強のことに興味がわく	.365		
⑬ グループに分かれてする勉強は楽しいと思う	.358		

(2) 4つの因子

まず、第1因子から見ると、この因子は、①授業でわからないことはあとで先生に質問する、②自分から手をあげて質問したり意見を言う、⑫授業を聞いていて勉強のことに興味がわく、⑪黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く、などの自分の興味や関心から学習を行うことに関連した質問項目で特徴づけられている。「自発的学習」因子と名づけよう。

第2因子は、⑧近くの人とおしゃべりをする、④マンガをかいたり、文房具で遊ぶ、⑨ぼうっと他のことを考えているなど、ペイ・アテンション・ルール(授業に注意を集中することに反する項目で特徴づけられている。「注意散漫」因子と呼ぼう。

第3因子は、⑩黒板に書かれたことをきち

んとノートに書く、⑪黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く、⑫授業を聞いていて勉強のことに興味がわく、⑬グループに分かれてする勉強は楽しいと思うなどの、質問項目で特徴づけられている。一部の項目は第1因子のときにもでてきた項目であるが、ここではこれらは授業への積極的な参加を表す項目と見て、この因子を「参加」因子と名づけよう。「注意散漫」と「参加」が、1つの因子の両極端としてではなく、別々の因子としてあらわれてきたことは非常に興味深い。すなわち、小学生は、一方で注意散漫な行動をとりつつも、他方では授業の要所所ではしっかりと参加できるのである。

第4因子は、⑥授業の内容が難しいと思う、⑦授業の内容が簡単すぎると思うの2つの項目で特徴づけられている。これはもう「難易

度」因子と呼ぶしかない。

以上、わが国の児童の授業中の学習行動は、「自発的学習」、「注意散漫」、「参加」、「難易度」の4つの因子を用いることで、児童の見地に立ちつつ構造的にとらえることができることがわかった。

例えば、自分の授業を計画するとき、教

3. 生徒の属性と学習の構造

次に、上述の学習の4つの因子を踏まえながら、小学生の学校での学習行動を調べてみよう。

(1) 小学生と学習の構造

まず、表1-10で、自発的学習因子に関連する項目から見ると、この因子を特徴づけている質問項目に対して「よく(時々)ある」と答えた児童は、①授業でわからないことはあとで先生に質問するで26.0%、②自分から手をあげて質問したり意見を言うで39.0%、⑫授業を聞いていて勉強のことに興味がわくで37.5%、そして⑪黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書くで37.4%であった。小学5年生は、自発的学習に関連する各項目で3割弱から4割弱の割合で積極的であった。もちろん、もっと多くの児童が自発的に学習できる授業構造を作るよう求められるのは大前提であるが、日本の先生は、諸々の制約のなかでよくやっていると断言するのはないだろうか。なお、性別を見ると、②自分から手をあげて質問したり意見を言うで、男子のほうが多く、⑪黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書くで、女子のほうが多い。

次に、注意散漫因子との関連では、⑧近くの人とおしゃべりをするが66.3%、約3分の2が「よく(時々)ある」と答えている。そして、④マンガをかいたり、文房具で遊ぶは33.9%、⑨ぼうっと他のことを考えているも38.0%であった。自発的学習を行うのと同じくらい、あるいはそれ以上に、日本の小学生は注意が散漫になりがちである。なお、性別では

師はこれらの因子を用いることで、児童が「自発的」に学習できるように設計してあるか、「注意散漫」な行動への配慮はできているか、みんなが「参加」しやすいように構造化されているか、そして「難易度」は適切かなど、児童の観点に立って授業を構造化することができる。

④マンガをかいたり、文房具で遊ぶで、男子のほうが多くなっている。

参加因子と関連する項目では、⑩黒板に書かれたことをきちんとノートに書くで、なんと82.8%が「よく(時々)ある」と答えている。今から四半世紀前のこと、私が未だ小学生の頃は(少なくとも私は)、あまりきちんとノートをとった覚えはない。近年の先生方のノート指導の効果だろうか。⑪黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書くは、37.4%で、小学生の段階では中学生や高校生ほど多くはない。⑫授業を聞いていて勉強のことに興味がわくは、37.5%。最後に、⑬グループに分かれてする勉強は楽しいと思うは、64.2%であった。そして、ここで注目したいのは、参加因子との関連では、いずれの項目でも女子のほうが男子よりも「よく(時々)ある」と答える割合が高いことである。小学生では、女子のほうが積極的に授業に参加している。

最後に、難易度因子と関連の深い項目では、⑥授業の内容が難しいと思うが41.5%、⑦授業の内容が簡単すぎると思うが27.5%であった。単純に計算すると、小学生の69.0%が授業の難易度を自分には不適切であると考えていることになる。

(2) 学業成績と学習の構造

表1-11は、性別×成績別に小学生の学校での学習を見たものである。この表で、自発的学習因子と関連のある項目では成績ごとの差が非常に大きく、男女とも学業成績が上位の児童は下位の児童よりも積極的に学習して

いる。例えば、②自分から手をあげて質問したり意見を言うでは、男子では成績上位が65.8%に対して下位は26.8%、女子でも成績上位が54.0%に対して下位は15.6%、といずれも40ポイント近くも差がついている。きわめて大きな差である。成績下位の児童がもっと自発的に学習できるような励ましと具体的な環境とが求められよう。

次に注意散漫因子と関連のある項目では、

男女とも成績下位の児童のほうが注意散漫気味の傾向がある。しかしその差は10ポイント前後で、それほど大きなものではない。すなわち、小学5年生の成績や前述のように性別とは無関係に注意散漫になる。

参加因子と関連の深い項目では、全般に成績ごとの差が大きい。

最後に、難易度因子との関係では、成績ごとの差異が再び非常に大きくなる。男子では、

表1-10 性別に見た学校での学習(小学生)

	男子 (1319)	女子 (1259)	全体 (2578)
(%)			
I. 自発的学習因子			
① 授業でわからないことはあとで先生に質問する	27.8	24.1	26.0
② 自分から手をあげて質問したり意見を言う	43.4	34.4	39.0
⑫ 授業を聞いていて勉強のことに興味がわく	35.5	39.7	37.5
⑪ 黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く	28.1	46.9	37.4
II. 注意散漫因子			
⑧ 近くの人とおしゃべりをする	67.1	65.6	66.3
④ マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	40.1	27.6	33.9
⑨ ぼうっと他のことを考えている	39.9	36.0	38.0
III. 参加因子			
⑩ 黒板に書かれたことをきちんとノートに書く	75.4	90.5	82.8
⑪ 黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く	28.1	46.9	37.4
⑫ 授業を聞いていて勉強のことに興味がわく	35.5	39.7	37.5
⑬ グループに分かれてする勉強は楽しいと思う	59.8	68.9	64.2
IV. 難易度因子			
⑥ 授業の内容が難しいと思う	41.3	41.7	41.5
⑦ 授業の内容が簡単すぎると思う	33.4	21.4	27.5
V. その他の項目			
③ 授業中に居眠りをする	4.4	2.5	3.5
⑤ 授業中に他の科目や塾の勉強をする	4.0	2.3	3.2

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ()内はサンプル数。

⑥授業の内容が難しいと答えた割合は、成績上位の児童では30.2%であるが、下位の児童では50.6%であった。その反対の⑦授業の内容が簡単すぎると思うは上位で53.9%もいるのに対して下位では23.8%であった。女子でも、同様な大きな差異があり、授業の難易度については男女ともに成績ごとの差異がとても大きいものとなっている。

また、ここで1つ注目したいのは授業の適切な難易度についてである。男子の成績上位では、30.2%が難しい、53.9%が簡単すぎると答えている。これらの数字を合わせると84.1%が授業の難易度は自分にあっていないと考

えているわけである。同様に計算すると、男子の成績下位者では74.4%、女子の成績上位者では61.2%、そして下位者では69.2%が難易度が自分にあっていないと考えていることになる。もちろん、教科や課題によっては、難しいほうがいいものや易しいほうがいいものもある。しかし、それにしても難易度が自分にあっていないと思っている児童が多い。小学校段階での習熟度別学級編成の導入を唱える人は少ないと思うが、学級定員の問題、学習内容の問題など、今後考えるべき点は多いのではないだろうか。



表1-11 性×成績別に見た学校での学習(小学生)

	男 子			女 子			全 体 (2578)
	上位 (401)	中位 (381)	下位 (522)	上位 (359)	中位 (478)	下位 (409)	
I. 自発的学習因子							
① 授業でわからないことはあとで先生に質問する	37.9	27.0	20.5	37.0	23.0	13.9	26.0
② 自分から手をあげて質問したり意見を言う	65.8	43.0	26.8	54.0	34.9	15.6	39.0
③ 授業を聞いていて勉強のことに興味がわく	52.1	32.8	24.5	55.7	39.5	25.7	37.5
④ 黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く	34.7	28.6	22.8	59.9	46.9	35.7	37.4
II. 注意散漫因子							
⑤ 近くの人とおしゃべりする	65.3	67.7	68.2	65.7	67.2	63.8	66.3
⑥ マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	33.4	41.7	44.6	25.1	30.3	26.9	33.9
⑦ ぼうっと他のことを考えている	36.7	34.1	46.4	31.2	34.5	42.3	38.0
III. 参加因子							
⑧ 黒板に書かれたことをきちんとノートに書く	78.8	80.6	69.0	94.4	91.6	85.6	82.8
⑨ 黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く	34.7	28.6	22.8	59.9	46.9	35.7	37.4
⑩ 授業を聞いていて勉強のことに興味がわく	52.1	32.8	24.5	55.7	39.5	25.7	37.5
⑪ グループに分かれてする勉強は楽しいと思う	65.3	61.7	54.2	76.0	73.0	58.4	64.2
IV. 難易度因子							
⑫ 授業の内容が難しいと思う	30.2	40.9	50.6	25.3	41.0	57.7	41.5
⑬ 授業の内容が簡単すぎると思う	53.9	24.1	23.8	35.9	18.8	11.5	27.5
V. その他の項目							
⑭ 授業中に居眠りをする	3.7	3.7	5.6	2.2	2.5	2.9	3.5
⑮ 授業中に他の科目や塾の勉強をする	4.2	3.1	4.6	0.8	2.7	3.2	3.2

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
注2) ()内はサンプル数。